

No. 83 石川県 山本薫 15歳 女性

私は石川県に住んでいる 15 歳の女の子。私はアトピー性皮膚炎と闘っている。しかし、その闘いもうすぐ終幕を迎えようとしている。それは厳し〜い治療を耐えぬいてきたからである。 (知らず知らずの内にステロイドを使ってきた人がステロイドの影響を抜き去ることは確かに厳しい辛い経験です。ステロイドは最もよく医療で使われている劇薬の一つであり、それを止めることは容易なことではありません。簡単に止められる薬であれば私も使いたいくらいです。だからこそステロイドを使う医者は患者に十分過ぎる程にステロイドの意味とその副作用を伝えるべきなのです。)

この病院に来る前、私は 2 年余り「悪魔の薬ステロイド君」のお世話になっていた。しかも漢方薬と併合して使うという信じられないことをしていた。 (ステロイドと漢方薬を併用すると、ステロイドの副作用がもっと強くなるのです。というのは漢方薬は皮膚の新陳代謝を良くするのでステロイドを塗ると吸収されやすくなり、それだけよく効きます。ちょうどステロイドの注射をするのと同じ位に効きます。ところがその分だけステロイドを止めた時に離脱症状が激しくなるのです。) 知識が無いというのは恐ろしいことで、自らステロイド君の副作用の罠にどっぷりはまっていることを知らなかったのである。そんな頃、『ステロイドは体によくない』『副作用が出るぞ』という話を聞いて、「よし、ちょうど塗るのもめんどかったし、脱ステ (脱ステロイド) するぞ!!」と脱ステをした。どんどん皮膚がバサバサになってきて、風呂上がりに皮膚がつっぱるようになってきて、体が痛くて熱くて、顔もどんどん赤くはれぼったく熱をもってきて、「これから私はどうなるの?」とよく考えるようになった。学校行事で陸上記録会があり、日光にたんとあたった次の日、私の皮膚の状態は急変していた。いつでも熱いは痛い熱っぽい…。負けず嫌いな私は学校へは毎日行った。(今思うと、こんな性格だったからこそ、治療をやったこれたのかもしれない。) でも家では涙涙で、日を追うごとに精神的に辛くなってきた。大学病院にでも行くかという話も出たが、ど〜せまたステロイドなんだとわかっていたので行かなかった。 (このように自分勝手にステロイドを止めて苦しむ患者が沢山います。医者である私でも時にステロイドを抜いてあげる時に困難を感じるのに、患者自身が自分で止めるという勇気は素晴らしいですが危険がいっぱいです。最後は自分一人ではどうにもならなくなって病院に行かざるを得なくなり、再びステロイドを大量に投与されて元の木阿弥以上に悪くなるのが関の山です。この患者さんは幸運にもインターネットで私の病院を見つけることが出来たので、最後まで脱ステロイドをやり遂げることが出来たのです。)

そんな時にインターネットで見つけたのがこの病院だった。「もうこんなのはごめんだ。ダメもとで行ってみよう。(先生、ごめんなさい。)」とはるばる大阪までやってきたのだ。看護婦さんの説明を受けて診察室に入ってびっくりした。なんだか医者っぽくない医者だったし、 (私は診察室では白衣も着けませんし、医者である前に人間でありたいと思

いながら、言いたいことを全て言いまくるのでこんな風を感じるのでしょう。) 森総理のことで怒られるし(私は石川県能登地方出身)、いきなり『わかってます。治してみせましょう。命をかけましょう。』なんて言ってるし…なんなんだ一体…と思った。でも「おう、そう言っているなら頼ってみようではないか。」と頼ることにした。もらったのは塗り薬と風呂に入れる薬、さっそく帰ったその日に風呂をわかしてみると、「ひえ〜っ、なんだこの色は! ? この泡は! ?」と思ったが、やわらかい水で見掛けによらずに結構気持ちいい風呂だった。…けど、魔女の鍋でぐつぐつ煮炊きされてる気がして複雑だった。今でもちよっぴり苦手だ。風呂から上がってみると皮膚がつっぱってないのでさらにびっくり。薬も塗って「さあ、おやすみなさい。」といきたかったが…痒い。なんだかムズムズかゆい〜っ。背中が手が届かないのでさすってもらったが、もう死ぬほど痒い。(痒ければさすってもらうのではなくて、掻き破ればよいのです。そうすれば痒みはなくなります。)

気が狂ってしまいそうなほど辛く1ヶ月間は熟睡できなかった。そして皮膚もむけた。『ボロボロ、ベラベラ』こんな表現がぴったりだと思うくらいむけた。例えば2ヶ月消えずに残っていた傷跡が2日で跡形もなく消えてしまうくらい。おまけに黄色い透明の汁も出た。これも『ダバダバ、ジャバジャバ』という表現がぴったり。全身からダバーッと流れ出るのには本当にまいった。ずっと風呂につかっとりたいと思うことが何度もあった。そうそう、朝晩の消毒もつらい。あれは痛い。でもぜひ先生のおすすめの消毒液を使って下さい。

(私はきらしてしまっただけで薬局で買って来た手術用の物を使ったのだが、涙が出るほど痛かった。その痛みを身をもって知りたい人は薬局へGo!) 3、4ヶ月もしたら体の調子が落ち着いてきた。まだ波はあるものの、この時ほど早めに脱ステして良かったと思った時はなかった。(15歳ですから治療歴もそれほど長くないので3、4ヶ月でリバウンドの頂点を乗り越えたようです。しかしリバウンドの程度は罹病歴や年齢で決まるものではありません。やはりどれだけステロイドをどのように使ってきたかが決定的な因子となります。この患者が言うようにステロイドは本当に悪魔の薬なのです。始めは喜ばせておいて最後は地獄に引きおろすという悪魔しか考えない薬なのです。何故このような薬を厚生省は認めるのでしょうか?わかりません。考えて下さい。)

長々と書いてしまったのでここいらで止めとくが最後に一言。

- 一、精神面で何かと辛いけあきらめずにがんばれ! (必ず私が治してあげるという保証を与えてあげているので、完治する未来を見て戦えば必ず乗り越えます。希望こそが戦うエネルギーの源泉です。)
- 一、春はがんばって乗り越えて! (この人は春の杉花粉に運ばれる化学物質に対して抗体が普通の人の1000倍以上もあったので、春の症状が激越であったのでこのように感じたのでしょう。)
- 一、受験生の方にはあんまりお勧めできません(私は死ぬほど苦労した…ちなみに私も受験生だった。)(しかし彼女は無事志望校に合格できました。)
- 一、家族の人は治療に協力してあげて下さい。(リバウンドのひどい人は必ず家族の暖か

い協力がなければ乗り越えられないでしょう。)

簡単にまとめてしまったが、本人のやる気が一番大事。「負けるもんか！治してやるぜい！！」てな勢いで乗りきって下さい。

では遠くの地で健闘を祈ってるぞ！「悪魔の薬ステロイド君」と闘っている諸君、さらばじゃ。

(なんだかものすごく読みづらい文章を読んできたそのあなた様、どうもありがとうございました。)

2001年3月23日